

平成 30 年 6 月 11 日現在

機関番号：32633

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2017

課題番号：26861939

研究課題名(和文) “女性を中心としたケア”の文化的背景を踏まえた助産師のケア評価尺度の開発

研究課題名(英文) Developing the "Women-Centred Care" questionnaire for midwives to evaluate their care when considering women's cultural background

研究代表者

飯田 真理子 (IIDA, Mariko)

聖路加国際大学・大学院看護学研究科・助教

研究者番号：90438854

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、“女性を中心としたケア”の文化的背景を踏まえた助産師のケア評価尺度の開発とその妥当性と信頼性の検討を行うことであった。尺度開発にあたり、日本におけるケアシステムの違いによる“女性を中心としたケア”の認識の比較(投稿)、日本における妊婦健診時の“女性を中心としたケア”とメンタルヘルスの関連の検討(投稿)、インドネシアの女性が助産師もしくは伝統的産婆のいずれかのケアを受ける際に影響する要因を“女性を中心としたケア”の認識も踏まえて調査(投稿)し、様々な対象に調査を行った。さらに、インドネシアの助産師にインタビュー(分析中)を行い、ケア評価尺度の基盤となるデータを得ることができた。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to develop the “Women-Centred Care” questionnaire for midwives to evaluate their care when considering women’s cultural background. To do so, in Japan, we compared outcomes of women and infants who received different types of care including women’s perception of “Women-Centred Care”, the relationship of women’s perception of “Women-Centred Care” during antenatal care and their mental health, and in Indonesia, we searched factors that influence Indonesian women’s choice of a midwife or a traditional birth attendant for maternal healthcare including their perception of “Women-Centred Care”. We also conducted an interview to Indonesian midwives (under analysis). From these studies, we were able to gather basic information to develop our questionnaire.

研究分野：助産学

キーワード：尺度開発 助産ケア 助産師 女性中心のケア インドネシア

## 1. 研究開始当初の背景

女性の多様な健康ニーズに応えるための基盤となっている概念が“女性を中心としたケア(Women-Centered Care: 以下 WCC)”である。WCC は女性の総合的な well-being を目標としており(Horiuchi et al. 2006)、女性のケアに対する満足感(Iida, Horiuchi et al. 2011)や産科的なアウトカムとポジティブな関連があり(Iida, 2012)、女性にとってメリットが大きい。英国の National Institute for Clinical Excellence (NICE)が発行している妊娠期ガイドライン(2008)の中でも WCC は理念として掲げられており、WCC の概念のもと女性へのケアに取り組むことがグローバルスタンダードに変わってきている。

一方、アフリカや東南アジア諸国においては看護師・助産師不足が問題となっており、ケアの質に目を向けるところではない状況にある。周産期死亡率が高いサハラ以南に位置するタンザニアでは、看護職の不足は質の低い看護ケアの提供につながり、それが女性の受診行動を遅らせ、ひいては高い周産期死亡率と関連があると言われており(Mselle et al. 2013)、看護職不足は大きな問題となっている。だが看護職の社会的評価は低く、人気もなく、離職率が高い(Haggstrom et al. 2008)ことが研究で示されている。この現状を放置すれば専門職として仕事を継続することは難しく、ひいてはケアの受け手である妊産婦に悪影響を及ぼす。医療設備や給与体系などの政策面への働きかけも必要だが、まずは女性の後押しを受けなければ社会は変わらない。

そこで、WCC を提供するために、まずは看護職への教育が必須である。その第一歩として、WCC の視点からのケアの質の評価が重要である。

研究者が参画している研究グループでは、2014 年度よりインドネシアにおいて母子保健改善のために活動を開始する予定である。イスラム圏での女性のケアに関する研究からは、母子保健改善のためには、女性の教育レベル、所得レベル、若年結婚・妊娠・出産、生活習慣病などといった社会・文化的背景を踏まえる重要性が示唆されている。そのため本研究では、文化的背景を踏まえた上でケアの受け手側とケアの提供者側の両者からのケアの評価を行うため、より対象者のニーズに即したケアの提供へとつながると考えられる。

以上より、研究者が開発し用いてきた WCC 尺度(飯田, 2010)は、ケアの受け手側の評価として用いることができ、尺度として一定の測定力があることが分かった(Iida, Horiuchi et al. 2012)ため、次の段階として、看護職への教育を充実させるための第一歩として、WCC の視点からのケアの質の評価

が重要であると考え、本研究の着想に至った。

そこで本研究の目的を、“女性を中心としたケア”の文化的背景を踏まえた助産師のケア評価尺度の開発とその妥当性と信頼性の検討を行うこと、とした。

本研究の意義として、次の3点が挙げられる。

(1)評価と同時に内省を促す尺度：原版の WCC 尺度は本来女性の WCC の認識を測定する尺度であるが、WCC は女性のケアの満足度と関連があることが分かっている。そのため、看護職が自らのケアの評価を行うと同時に、女性のニーズに応えられているかを内省し、自己研鑽にもつながる。

(2)ケア基準・ケア体制の整備：ケア提供者である助産師側から WCC の視点でケアの評価を行うことで、ケアの受け手側と提供者側のケアの認識をすり合わせていくことが可能となる。それにより、助産ケアの質の向上に貢献することができる。

(3)文化を越えた WCC 概念の発達：ケアの受け手側と提供者側のケアの認識を WCC の視点で捉え、更にはそれを多文化で比較することで、WCC の概念が文化を超えて助産ケアの本質を捉える概念かを検証可能である。同時に、グローバルスタンダードの尺度として発展可能である。

## 2. 研究の目的

研究の目的は、“女性を中心としたケア”の文化的背景を踏まえた助産師のケア評価尺度の開発とその妥当性と信頼性の検討を行うことである。

## 3. 研究の方法

研究目的達成のために、日本とインドネシアの両国にて妊婦健診時における女性の WCC の認識と女性の背景等との関連の検討を行った。

### (1)2014 年

日本：日本のケアシステムの違いにおける女性の WCC の認識および母子のアウトカムとの関連の検討した論文の投稿。

インドネシア：インドネシアの女性が助産師もしくは伝統的産婆のいずれかのケアを受ける際に影響する要因を明らかにすることを目的として実施した調査の論文執筆。

### (2)2015 年

日本：助産師が 5 - 6 人のチームを組み妊娠期から産褥期まで継続ケアを提供することの意味を女性の声から評価することを目的とした研究の分析および発表。

インドネシア：データ収集を予定する施設にて実際のケアの様子の見学および研究受け入れに関する調整。  
前年度に引き続き論文の執筆。

### (3)2016年

日本：妊婦健診を通じて妊婦が認識する“女性を中心としたケア”とマタニティーブルーズと産後うつ病との関連を探求した研究の論文執筆。

インドネシア：インドネシアでの調査を実施するために、インドネシア人研究者とのディスカッションをし、それをもとに研究計画書の執筆。  
前年度に引き続き論文の執筆。

### (4)2017年

日本：前年度に引き続き論文の執筆、投稿と査読の修正。

インドネシア：インドネシア人の助産師に対するインタビューの実施。  
前年度に引き続き論文の執筆、投稿と査読の修正。

## 4. 研究成果

### (1)2014年度

日本において助産師主導ケアと医師主導ケアを受けた女性とその新生児の産後入院中と1か月後のアウトカムを比較することを目的とした論文を執筆。結果として、WCCの認識が高い助産師主導ケアを受けた女性は、医師主導ケアを受けた女性と比較して、有意にケアの満足度が高く、前期破水が少なく、完全母乳率が高く、マタニティーブルーズの得点が低かった(Mariko Iida, Shigeko Horiuchi, Kumiko Nagamori, 2014)。

### (2)2015年度

日本において、産科的にローリスクの女性に対して助産師が5-6人のチームを組み妊娠期から産褥期まで継続ケアを提供することの意味を女性の声から評価することを目的とした論文を発表。ここでいう助産師による継続ケアは、WCCの提供がされている体制である。13人の女性へのインタビューから、助産師による継続ケアは女性に安心感を与え、不安を軽減することにつながっていたことが分かった(Kumiko Nagamori, Mariko Iida, Shigeko Horiuchi, Kaoru Osumi, 2015)。

### (3)2016年度

今までの研究成果の振り返りやインドネシア人研究者とのディスカッションおよび論文執筆過程を通し、単純に日本語の尺度を翻訳したのでは、インドネシアの文化にそぐわない部分があるという結論に至った。そこ

で、インドネシアの助産師が妊婦の文化的・社会的背景をどのように理解し、関係を築く際に何を意識しているのかを記述することを目的に研究計画書を作成した。

### (4)2017年度

日本において妊婦健診を通じて妊婦が認識する“女性を中心としたケア”とマタニティーブルーズと産後うつ病との関連を探求することを目的に産後2回質問紙調査を行った。1回目は280人、2回目は238人が分析に含まれ、マタニティーブルーズおよび産後うつ病疑いの女性の方がそうでない女性よりも妊娠中のWCCの認識が低いという結果であった(飯田真理子、堀内成子、永森久美、2018掲載決定)。

インドネシアの女性が助産師もしくは伝統的産婆のいずれかのケアを受ける際に影響する要因を明らかにすることを目的とし、371名を対象に質問紙調査を実施した。決定要因は、女性の背景、“女性を中心としたケア”の認識、ケアの満足度、妊婦健診時のケア、家族の後押し、伝統的な考えという結果であった(Yenita Agus, Shigeko Horiuchi, Mariko Iida, 2018)。

インドネシアの助産師が妊婦の文化的・社会的背景をどのように理解し、関係を築く際に何を意識しているのかを明らかにするために助産師5名にインタビューを行った(分析中)。

以上のように、日本およびインドネシアにおいて妊婦健診における女性のWCCの認識を調査し、女性のアウトカムとの関連や女性がケアを誰から受けるかの決定要因に影響する因子との関連を検討した。

これらの研究で得られた結果は、本研究の当初の目的である「文化的背景を踏まえた“女性を中心としたケア”助産師のケア評価尺度の開発」の基盤となる。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 3 件)

1. 飯田真理子、堀内成子、永森久美、妊婦健診の“女性を中心としたケア”の認識とマタニティーブルーズおよび産後うつ病との関連、母性衛生、査読有、59(1)、2018(掲載決定)、81-89
2. Yenita Agus, Shigeko Horiuchi, Mariko Iida, Women's choice of maternal healthcare in Parung, West Java, Indonesia: Midwife versus traditional birth attendant, Women and Birth, 査読有, 2018, DOI<https://doi.org/10.1016/j.wombi.2018.01.007>

3. Mariko Iida, Shigeko Horiuchi, Kumiko Nagamori, A comparison of midwife-led care versus obstetrician-led care for low-risk women in Japan, 査読有, Women and Birth 27(3), 202-207, 2014, DOI: 10.1016/j.wombi.2014.05.001 27(3), 202-207

〔学会発表〕(計 1 件)

Kumiko Nagamori, Mariko Iida, Shigeko Horiuchi, Kaoru Osumi, Women's impressions of antenatal care by a midwifery-led continuity team The ICM Asia Pacific Regional Conference, 2015

〔図書〕(計 0 件)

なし

〔産業財産権〕

なし

出願状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

なし

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

飯田 真理子 (IIDA, Mariko)  
聖路加国際大学・大学院看護学研究科・  
助教  
研究者番号：90438854

### (2) 研究分担者

なし